

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－

1. 市町村教育委員会等の名称

:

住所 : 静岡市清水区旭町6番8号

代表者職・氏名 : 静岡市教育長 池谷 眞樹

2. 取組の名称

: 静岡型小中一貫教育の推進
～「縦の接続」と「横の連携」による教育力の向上～

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

平成30年度は委託研究の3年間のまとめの年度として取り組む。まず、本市の目指す小中一貫教育の普及を図るため、先駆的に実践研究を行う4つの小中学校グループ（以下、グループ校）を、第Ⅰ期実践研究校として指定し、平成29年度作成の「静岡型小中一貫教育カリキュラム【解説】」に基づいた先駆的な取組と検証改善を開始する。

また、本市の小中一貫教育に対する理解を深めるため、教職員対象の研修会や市民対象の市民フォーラムを開催し、市の方針や実践研究校の取組等を広く周知する。さらに、この実践例をまとめた「静岡型小中一貫教育カリキュラム【実践】」の冊子作成や、静岡型小中一貫教育の特色である「しずおか学」の副読本を6分野において完成させる。

これら本市の取組内容と今後の方向性について、様々な立場の委員で構成される「静岡型小中一貫教育教育課程等協議会」で協議し、2022年度の静岡型小中一貫教育全市一斉スタートに向けた準備を整えていく。

(2) 取組Ⅱの実施状況(平成30年度)

5月	<p>5/15(金) 静岡型小中一貫教育教頭研修会<国庫委託対象経費></p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡型小中一貫教育カリキュラム【解説】について ・講話(常葉大学大学院教授 安藤雅之氏) <p>5/16(水) しずおか学企画検討会</p> <p>5/21(月) しずおか学副読本編集委員会①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶、しずまえ、海洋文化、オクシズ、防災、歴史文化の6分野について児童生徒が学習を行うための副読本作成 <p>5/31(木) 静岡型小中一貫教育教育課程等協議会作業部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡型小中一貫教育カリキュラム【実践】の方向性について ・スポット校の進捗状況について <p>(随時) 第Ⅰ期実践研究校による実践検証<国庫委託対象経費></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ校の経営構想に基づいた、小中一貫教育全般に関する協議および協働 ・各グループ校の小中一貫教育準備委員会開催 <p>(随時) 指導主事による全小・中学校訪問開始(要請に応じて随時実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ校の取組状況の把握及び必要に応じた助言、支援 <p>(随時) 各小・中学校による保護者・地域住民向け説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ校または各学校が、平成29年度作成のDVD等を活用した静岡型小中一貫教育の解説と各グループ校の取組を説明 <p>(随時) 教育委員会による地域・保護者等向け説明会</p>
6月	<p>6/19(火) 静岡型小中一貫教育推進者研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡型小中一貫教育カリキュラム【解説】について ・講話及び実践研究について(静岡市立安倍口小学校長 豊泉行男氏)
7月	<p>7/17(火) 第2回 第Ⅰ期実践研究校研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループにおける取組について(進捗状況) ・コーディネーターの役割について <p>(随時) 全43グループ校における小中で協働した研修会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ校の9年間の一貫したカリキュラムの作成 ・各校の指導内容に関する情報交換 ・児童交流、学校行事等に関する運営に関する協議
8月	<p>8/7(火) しずおか学副読本編集委員会②</p> <p>8/10(金) しずおか学副読本編集委員会③</p> <p>8月初旬 市広報誌「しずおか気分」への記事掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポット校の取組を中心に、小中一貫教育の進捗状況を広く市民に周知
9月	9/20(木) しずおか学副読本編集委員会④
10月	10/17(水) しずおか学副読本編集委員会⑤
11月	<p>11/27(火) 第Ⅰ期実践研究校研修会②(①は4月開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ校の進捗状況について ・コーディネーターの役割について ・市民フォーラムにおける各グループ校の進捗報告について <p>11/30(金) 静岡型小中一貫教育教育課程等協議会作業部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡型小中一貫教育カリキュラム【実践】の内容について

12月	<p>12/14 (金) 静岡型小中一貫教育市民フォーラム<国庫委託対象経費></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政説明 (静岡型小中一貫教育について) ・第I期実践研究校による実践の中間報告 ・講演 (筑波大学教授 樋口直宏氏) <p>12/17 (月) 静岡型小中一貫教育教育課程等協議会<国庫委託対象経費></p> <p>委員：学識者3名、自治会代表、保護者代表、私学協会代表2名、社会教育代表、教育委員 (教育長職務代理者)、教育統括監、校長代表3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポット校の進捗状況について ・静岡型小中一貫教育カリキュラム【実践】について ・しずおか学副読本について ・今後の方向性について
1月	-
2月	<p>2/27 (水) ~ 平成31年度教育課程編成に関する支援 (ヒアリング) の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校対象に小中一貫教育の進捗状況のヒアリング
3月	<p>3/14 (木) 静岡型小中一貫教育カリキュラム【実践】完成<国庫委託対象経費></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践研究校やその他の学校の先駆的な取組をとりまとめる <p>3月末 静岡型小中一貫教育リーフレットの作成・配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡型小中一貫教育の目的や実践を中心とした進捗状況の周知

(3) 取組の成果

平成30年2月に策定した静岡型小中一貫教育カリキュラム【解説】を基に、各グループ校において、【解説】の内容に沿った教育課程が編成・実施が始まっている。今後は、静岡型小中一貫教育カリキュラムの特色である4つの視点に沿って成果を検証する。

【視点1】学校の教育目標を小学校と中学校で共有すること

- 学校の教育目標（9年間で目指す子どもの姿）を設定しているグループ校の割合
H29：49%→H30：93%

【視点2】9年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成し実施すること

- 学習指導等における、9年間を見通した年間指導計画等の作成、学習スタイル等の共有に取り組んだグループ校の割合 H29：88%→H30：97%

【視点3】職員の協働、児童・生徒の交流のある教育を行うこと

- グループによる研修を計画・実施したグループ校の割合 H29：91%→H30：100%
- 児童・生徒の交流活動を検討・実施したグループ校の割合 H29：95%→H30：100%

【視点4】地域と連携した教育を行うこと

静岡型小中一貫教育組合せ校（グループ校）の小・中学校の教職員、保護者と地域の代表が一緒になって、各グループ校でどのような小中一貫教育に取り組むのかを協議し、準備を進めるための組織として「小中一貫教育準備委員会」を設置する。

- 小中一貫教育準備委員会を組織したグループの割合 H29：74.4%→H30：100%
- 小中一貫教育準備委員会を開催したグループ校の割合 H29：34.8%→H30：98%

- 授業が分かると思う児童・生徒の割合

児童 H26:79% → H29:79.7% → H30:83.9% (算数)、85.3% (理科)

生徒 H26:72.2% → H29:68.9% → H30:66.4% (数学)、66.5% (理科)

- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると答える児童・生徒の割合

児童 H26:40.9% → H29:37.1% → H30:46.8%

生徒 H26:30.8% → H29:31.8% → H30:34.7%

(4) 今後の取組予定

- 実践研究校における先駆的取組の推進、周知

- ・第Ⅰ期実践研究校による実践研究について、成果発表を行う。（2019年）
- ・第Ⅱ期実践研究校が実践研究を進める。（2020～2021年）

- 小中一貫教育教育課程等協議会の開催（年1回程度を予定）

実践研究校の実践研究によって明らかとなった成果と課題や市内全グループの小中一貫教育の進捗状況について協議、検証し、次年度の推進に活かす。

- グループ校ごとの準備

グループ校ごとに、9年間の一貫した目指す子ども像の実現に向け、小中一貫教育構想図を作成し、合同研修会等の開催による教職員の協働や小中一貫教育準備委員会の開催等による地域連携を進め、2022年度の全市一斉スタートに向けた準備を推進する。

- 小中一貫教育を進めながら、学校運営協議会への移行を目指す。

「地域とともにある学校づくり」を組織的・継続的に進めるために、小中一貫教育準備委員会での協議・準備の場を活かして、各グループ校に「小中一貫学校運営協議会」の設置を推進する。